

成人麻疹大流行？！

院長

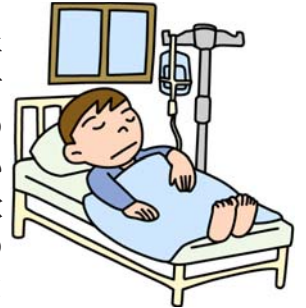
最近成人麻疹が流行し、関東では大学や高校の閉鎖がマスコミで伝えられました。仙台市でも成人麻疹(15才以上)が流行し、21週(5月27日)まで38人が報告されています。感染症動向調査が始まって以来、成人では最大の流行です。一方15才未満は30例ですが半数は10歳以上で、従来の1~3歳に多いパターンとは異なっています。小児の流行は小規模ですが、今後成人麻疹の流行の拡大によって変わってくる可能性もあります。「恋なんてはしかのようなもの」と例えられ、麻疹という名前は知っていても病気としての重さは、以外と知られていません。麻疹は、昔から“命定め”といわれる重い病気で、現在でも命にかかわる重要な病気です。

原因は麻疹ウイルスで、飛沫によって感染します。発疹がでる前はカゼと区別つかず、診断が難しい医師泣かせの病気です。初期の診断が難しいことに加え、伝染力が強いので、集団や家庭では感染を防ぐことは不可能です。麻疹に対する直接的な治療は無く、唯一の対策はワクチンによる予防だけとなります。

初期症状はカタル期(3~4日)と呼ばれ、熱・鼻水・咳・めやに等で、カゼとの区別はつきません。その後一旦熱が下がりかけますが、再びの熱の上昇とともに発疹(発疹期4~5日)がでできます。顔から始まる発疹は全身に広がり、熱も高熱(39~40度)で咳もひどく、次第に全身状態もおかされていきます。回復期(3~4日)には発疹が薄くなると同時に熱が下がり、次第に色素沈着が見られるようになります。発疹がでる前に、口の中の両側にコプリック斑(白い斑点)が特徴で、比較的早期の診断に役立ちます。麻疹は中耳炎など合併症の多い病気ですが、重大な合併症には肺炎と脳炎があり時には死亡することもあります。全身状態が冒される程度も強く、1/2~1/3は入院が必要となります。

重症な病気で、治療法もないわけですから、予防することがとても重要です。従来は麻疹の単独ワクチンの接種でしたが、2006年4月からは麻疹風しんの混合ワクチン(MRワクチン)になり、1期(12~24ヶ月)と2期(小学校入学前1年間)の2回接種になりました。ワクチンの接種による免疫の獲得は高く、現在の予防接種の有効性は十分に確認されていますが、接種率が低いことが大きな問題です。最近様々な取り組みで接種率は向上してきたものの日本は先進国のなかでは最も低く、約85%程度です。接種率が90%を超える国ではほとんど流行はなく、欧米では患者さんが年

間100人にも満たないところもあります。欧米とは異なり日本では年間何と5万人以上が罹患し、死亡する子どもが毎年30~50人前後とのデータもあります。また、日本から麻疹が持ち込まれるため、欧米諸国の間では悪名高き麻疹の輸出国として位置づけられています。



成人麻疹については、どう考えたらよいのでしょうか。幼児期に接種したワクチンでの免疫の獲得は95%程度と考えられています。以前は周囲に麻疹の患者さんがいたため、接触することにより免疫が維持(ブースター効果)されていました。近年麻疹の患者さんが減少したため、接触することが少なくなりブースター効果が働かず免疫が低下してきているのです。時間とともに免疫が低下し、10歳前後で10%、20才になると20%で免疫が弱まると言われています。免疫が低下した時に麻疹に感染したものを“修飾麻疹”と呼び、典型的な症状が見られないこともあります。また、1989年からMMR(麻疹、おたふく、風しん)ワクチン接種が始まりましたが、おたふくワクチンによる髄膜炎の副反応のため1993年に中止となりました。この時期は副反応との兼ね合いもあり、麻疹ワクチンの接種率が60~80%低下しました。免疫の低下、見逃されやすい“修飾麻疹”の存在と未接種者が、高校生や大学生を中心とした流行を引き起こしている原因なのです。

現在流行への対策はどのようにしたらいいのでしょうか。麻疹単独のワクチンは不足し、麻疹の抗体価の検査も試薬の問題で制限されているのが現状です。先月の新聞にも掲載しましたが、箇条書きにしておきます。

1. 定期接種(1期及び2期)を早めに受ける
2. 麻疹ワクチン未接種者で未罹患者は、緊急に接種
3. 小学生から20代の接種者は、追加接種
4. 30才以上は、抗体検査後に接種

誰でも感染するというものではないので、状況をよく見極めることが大切です。ワクチン不足や抗体価検査も問題となっているので、医療機関で相談をしてください。

現在の状況を考えると、MRワクチンの定期接種を早めに受けること、未接種者は速やかに接種を受けることが重要です。そして麻疹が怖い病気ということを理解し、周囲にも伝えて下さい。MRワクチンは、「1才の誕生日の最高のプレゼント」です。ワクチンで予防できる病気の一つ、それが麻疹なのです。

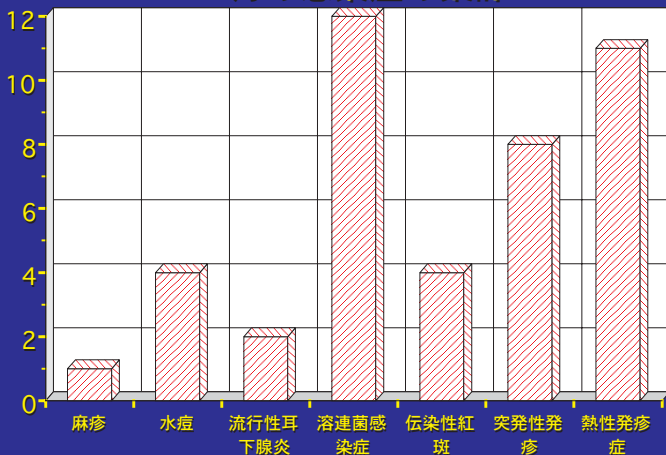
読者の広場

先月は28通のメールを頂きました。比較的医療相談のメールが多い月でした。まず1通目は若林区の鈴木さんからの医療相談のメールを紹介します。



「いつもお世話になっています。鈴木香澄の母です。お休みなでいつ読んでもらえるかわからないのですが、不安心なのでメールしました香澄が昨日から発熱し、今日急患センターでインフルエンザA型と言われました。幼稚園ではかかっている子もいると聞いていましたが、まさかこの時期にかかるとは思わず、驚きました。昨日は熱があっても元気もよく、水分も取れていたし、おにぎりなども食べていたのですが今日になり元気もなく、熱も39℃台になりました。やはり、タミフルは出してもらえませんでした。香澄は脱水症状を起こしやすいので早く熱が下がってほしいです。ほかにインフルエンザに効く薬などはあるのでしょうか？先生にみてもらえず残念ですが、明日あいている小児科に行ってきます。」土曜の夜で出かけていたので少し遅れましたが、次のように返事をしました。「メールありがとう。最近また、少しインフルエンザが増えてきていました。インフルエンザへのタミフルの投与は医師によって異なりますが、処方しない方向になってきています。(略)〇〇〇小児科医院(若林区〇〇x-xx-x、xxx・xxxx)の〇〇先生に、タミフルの件と点滴の件話しておきました。まずは明日診てもらってください。お大事にと香澄ちゃんに伝えてください。」そしてありがたい返事です。「この度はお休み中なの、本当にありがとうございました。メールをいただいただけでもうれしかったのに、病院の紹介までしていただきとても感激しました。香澄は、一時は熱が39℃台までありましたが、今朝は38℃前後まで下がり遊ぶ元気も出てきました。午前中に〇〇先生のところに行ってきました。「川村先生から聞いていましたよ」と言われてタミフルを出すか聞かれましたが、先ほど書いたような状態だったので解熱剤の様子を見ることにしました。もっとグツツリしていたら迷わずもらったと思いますが、不安心もあったのでもらわないことにしました。また熱が上がってくるかもしれないのでまだ安心はできませんが、今のところは点滴をするほどのひどさはなさそうです。早くお礼が言いたかったのと経過を知らせたかったのでメールしました。お休みの時にお手数をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。クリニックが休診で不安心でしたが、先生のおかげで安心することができました。本当にありがとうございました。」いつでも対応できるとは限りませんが、まずはメールしてみてください。休みにになったから知らないでは、かかりつけとは言えません。休みの時にでも何か方法があれば考えます。それより何より、経過報告とお礼のメール、ありがたく嬉しい限りです。次は虫垂炎で入院した宮城野区のTさんからのメールです。「こんばんは。今日はお世話になりました。やはり〇〇は盲腸でした(>_<)小さい子でもなるんですね～。散らすより手術したほうがよいとのこと夕方手術を受けました。無事手術を終え、麻酔から覚めた後は小声ながらお喋りもできました。盲腸を見せて頂いたら、赤黒くなり、一部は白っぽく変色してました。痛みも治まり、37.8度まで上がった熱も下がりひとまず安心です。今はぐっすり眠っています。私の方が寝付けず、病室を抜けてメールを打っている次第です。親子で入院(付き添い)頑張ります(^_^)取り急ぎメールでご報告させて頂きました。」そして続いて手術後の経過報告です。「こんばんは。〇〇は盲腸術後の経過も順調で、昨日退院しました。学校も今日から行き、元気にしております。走ると私に注意されるので、小走りで遊んでいます。気分としては体育や外遊びも思う存分したいようです。去年足の骨にヒビが入った時もそうでしたが、子供は治ってしまえば怪我や病気の事なんてケロッと忘れ、走り回りますよね～。大人なら暫くおとなしくしようかと思うところですが…見てるこっちがハラハラする位、元気にになりました(^_^;)次にお会いするのは、XXの予防接種であつよう子供の健康管理に努めます！この度はお世話になりました。おやすみなさい」。2回の報告、お母さんの気持ちが伝わってきます。本当にありがとうございました。

5月の感染症の集計



成人麻しんの患者さんが1名出ました。仙台市内では無く、塩釜の高校生です。子どもの麻しんは、今のところみられていません。溶連菌感染症はやや増えていますが、他に増えている感染症はありません。グラフには示していませんが、インフルエンザの患者さんが7名みられました。

お母さんクラブの御案内 新規会員募集中

6月21日(木) 14:00～ 福沢市民センター

ボランティアグループかぼちゃ畑さんによる「絵本の読み聞かせ、手遊び」など、子どもとのコミュニケーション作りを学びましょう。今回は、会員以外の方の参加も可能です。興味ある方や参加希望の方は、受付まで。

6月のお知らせ

- ・在宅休日当番 6月10日(日) 御利用ください
- ・午後休診 6月30日(土) 外来小児科学会教育検討会(西宮)
- ・栄養育児相談 毎週水曜日 13:30～

編集後記

5月は河北新報のスリングの記事、東北放送とミヤギテレビの麻しんの取材、もうひとつ東北放送の夜泣きの解説とマスコミから引っぱりだこでした。福沢市民センターの講演も。6月は出張(幕張、西宮)、勉強会、休日当番と、ゴルフする暇も無い忙しさです。まあ！忙しいうちが華でしょうか？



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。お陰様で再版の方向に！詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を